

高度化する在宅医療を支える在宅メディケ アシステム開発の概要と福島県・浜通り地 区に期待する事

2017.3.18

コニカミノルタ株式会社

福島コンピューターシステム株式会社

コニカミノルタ(株)



福島コンピューターシステム(株)



オフィスサービス

A3 カラー複合機
世界38カ国でトップクラスのシェア (No.1 or 2)



カセット型DR (デジタルラジオグラフィ)
国内市場でトップクラスのシェア



ヘルスケア

産業印刷

カラーデジタル印刷機
世界52カ国でトップクラスのシェア (No.1 or 2)



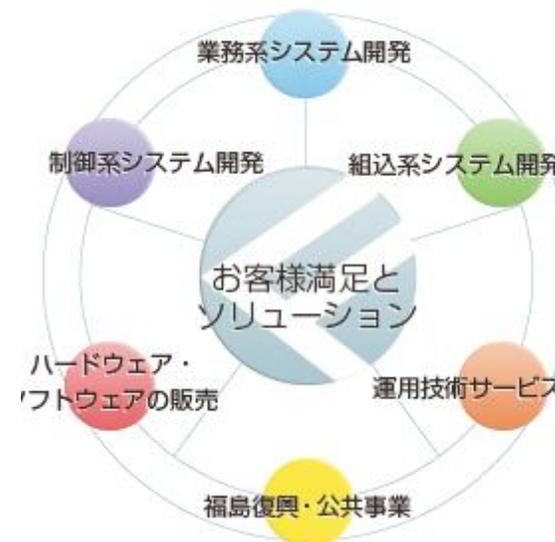
光源色計測機器
世界トップクラスのシェア



産業用光学

VA-TAC フィルム
液晶テレビ用でトップクラスのシェア

機能材料



コニカミルタ復興支援への取り組み



- 宮城県南三陸町 約100名の社員の派遣による瓦礫の撤去等の復興支援 (2011年9月)

- 巨理町ボランティア活動
防潮林環境整備と植樹作業 (2013年～継続)

- コニカミルタグループとして救援金を拠出
- 労働組合はじめ国内外の従業員が募った募金を救援金として拠出
- 酸素飽和度計を被災地の医療機関へ無償提供
- 医療用画像診断システムを被災地の医療機関へ無償貸与
- 企業／自治体の復興支援のためITサービスを無償提供
- 東京都内の社宅を避難されている方々へ無償提供

ふくしま医療福祉機器(救急・災害対応)開発事業



事業概要：サブテーマ 小型X線動画装置

救急・災害現場において、心肺機能を診断可能とする簡易、低侵襲なX線動画像システムの開発

事業期間： 平成26年12月～平成29年3月

連携企業・大学： コニカミノルタ株式会社
福島県立医科大学、福島コンピュータシステム株式会社
金沢大学、滋賀医科大学

従来のX線画像診断



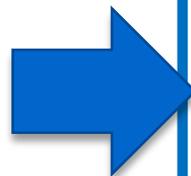
在宅



静止画



病院



移動型ER・救急・災害



動画

現場での即時治療



研究目的、背景(実用化開発等の背景)

社会課題

- 超高齢化
- 医療費・介護費増加
- 健康寿命の延伸

政策

- 在宅医療・地域包括ケアシステムの実現
- 予防医療、早期診断、早期治療
- AI・ICTを医療分野活用

浜通り地区の現状

- 震災以降の県外転出増で人口減少
- 急速に進行する高齢化
- 医療・介護保険費の増大

いわき市における介護保険給付費の推移



※H28.12.12 いわき市地域包括ケア推進課による28年度意見集約会資料より抜粋

浜通り地区は、今後の高齢化社会の未来図であり、

- 医療・介護システムの充実
- 安心して暮らせるコミュニティづくり

在宅医療の課題

- ① 医師不足・負担増
⇒24時間365日の対応が必要
不必要な呼び出し等による往診数増
- ② 医療情報・介護情報の連携
⇒紙や電話による申し送り、情報共有不足
- ③ 在宅現場での診断情報が不足
⇒簡易で且つ低侵襲の画像情報が必要
⇒Big Data、IoT活用による在宅医療支援

- 多職種連携による在宅医療の促進
- 情報共有と作業負担の軽減
- 質の高い在宅医療の提供

研究内容(実用化開発等の内容)

開発概要

モバイル端末やクラウドを介して在宅高齢者の診断画像情報、バイタル情報、その他の健康情報を共有化することで、訪問介護者・かかりつけ医が高度なコミュニケーションをはかる在宅メディケアシステムの開発

実用化開発のポイント

在宅メディケアクラウドおよび在宅現場における医療機器（携帯型超音波、無線パルスオキシ、ポータブルDRの3種）の開発を、浜通りでの実証実験を通して構築する。

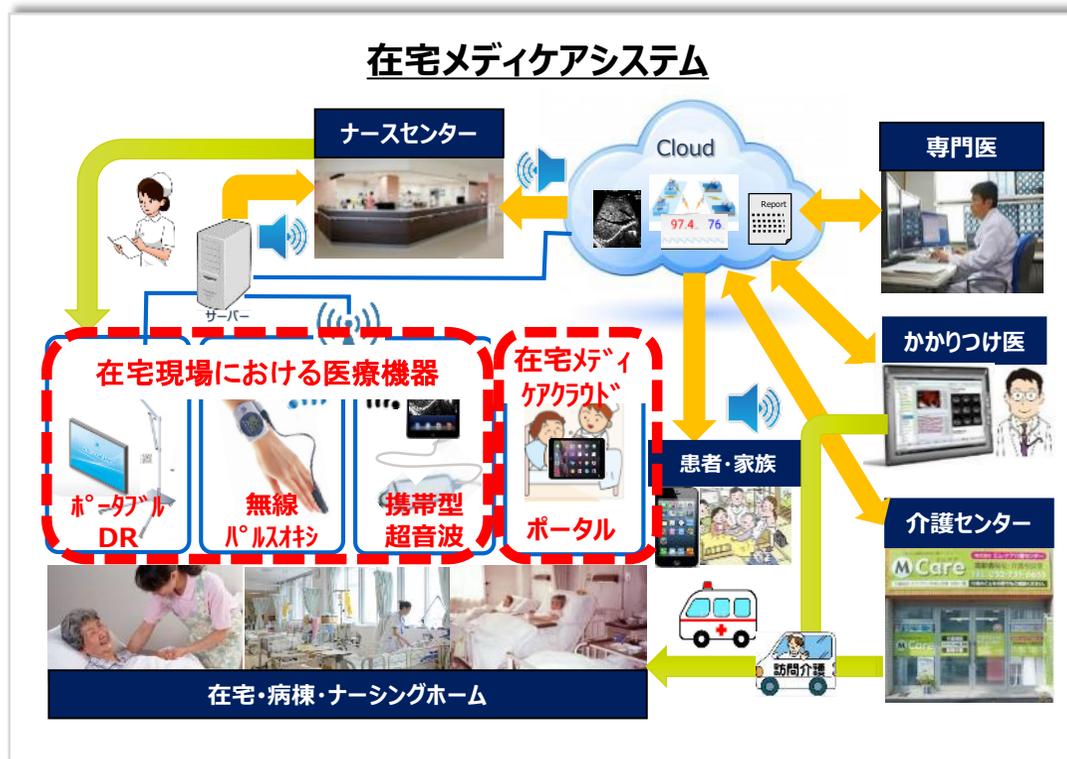
4テーマとも技術を自社開発することで高い競争力を確保し、**福島コンピューターシステム**のソフト開発力を合わせることで、使い勝手が良く、医療現場で即戦力となるシステムに仕上げる。

実用化後の事業化目標

コニカミノルタにて薬機法やFDA認証を取得し販売を開始し、普及を促進。

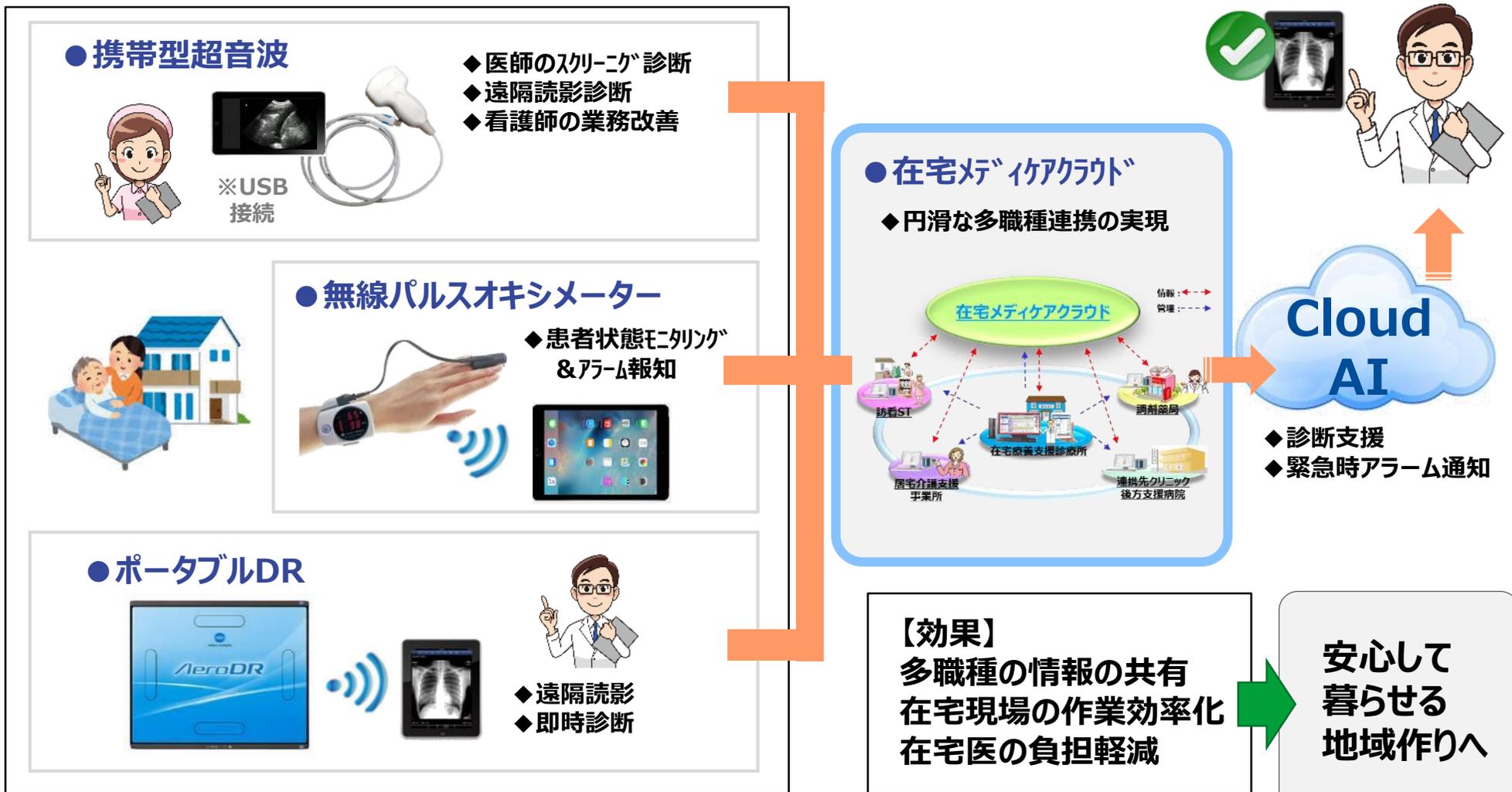
浜通り地域への経済波及効果（見込み）

本事業で月平均約12人の雇用を生み出すとともに、研究開発が成功すれば浜通り地区での雇用確保、浜通り地区での機器の生産を検討



事業化計画(浜通り地域における実用化事業化の展開)

- 医療機器と市販のタブレット端末と接続可能とし、在宅現場に持ち込む際の最適な携帯性と、質の高い医療・介護を目指し、患者様や御家族様の安心して暮らせる地域作りへ貢献いたします。



- 浜通り地区地元企業によるパルスオキシメーター基板試作
- 本事業専用のソフトウェア開発拠点として**福島コンピューターシステム田村開発センター**を新設
- **開発メンバー15人以上**の当該センターへ常駐
- コニカミノルタ開発メンバーによる短期出張ベースのF2F開発（700時間以上）
- 浜通り地区における在宅医療の実態調査、先生方や医師会との意見交換。
- いわき市における特定の多職種連携の会に参画し、在宅医療に関する意見交換を実施。



福島コンピューターシステム田村開発センター外観



開発風景

・在宅現場における医療機器の開発のために

- 療養病棟を保有する医療機関の協力
- 先生方との意見交換
- 臨床価値の仮説検証

・在宅メディケクラウドの開発のために

- 実証実験に協力して頂ける医療機関及び多職種連携の会
- 在宅医療の質向上へ向けた在宅医との意見交換

・地元企業との開発拠点の運営のために

- 円滑な開発継続のため、切れ目のない工数費消のご承認
- 電車本数増（磐越東線）
- 宿泊施設、コンビニ等の充実

“在宅メディケアシステム開発”の実用化開発を通じて、
浜通り地区が、安心・安全に暮らせるコミュニティづくりに
貢献し、在宅医療の充実によって、“避難指示解除地
域”の帰還促進を支援していきたい。

